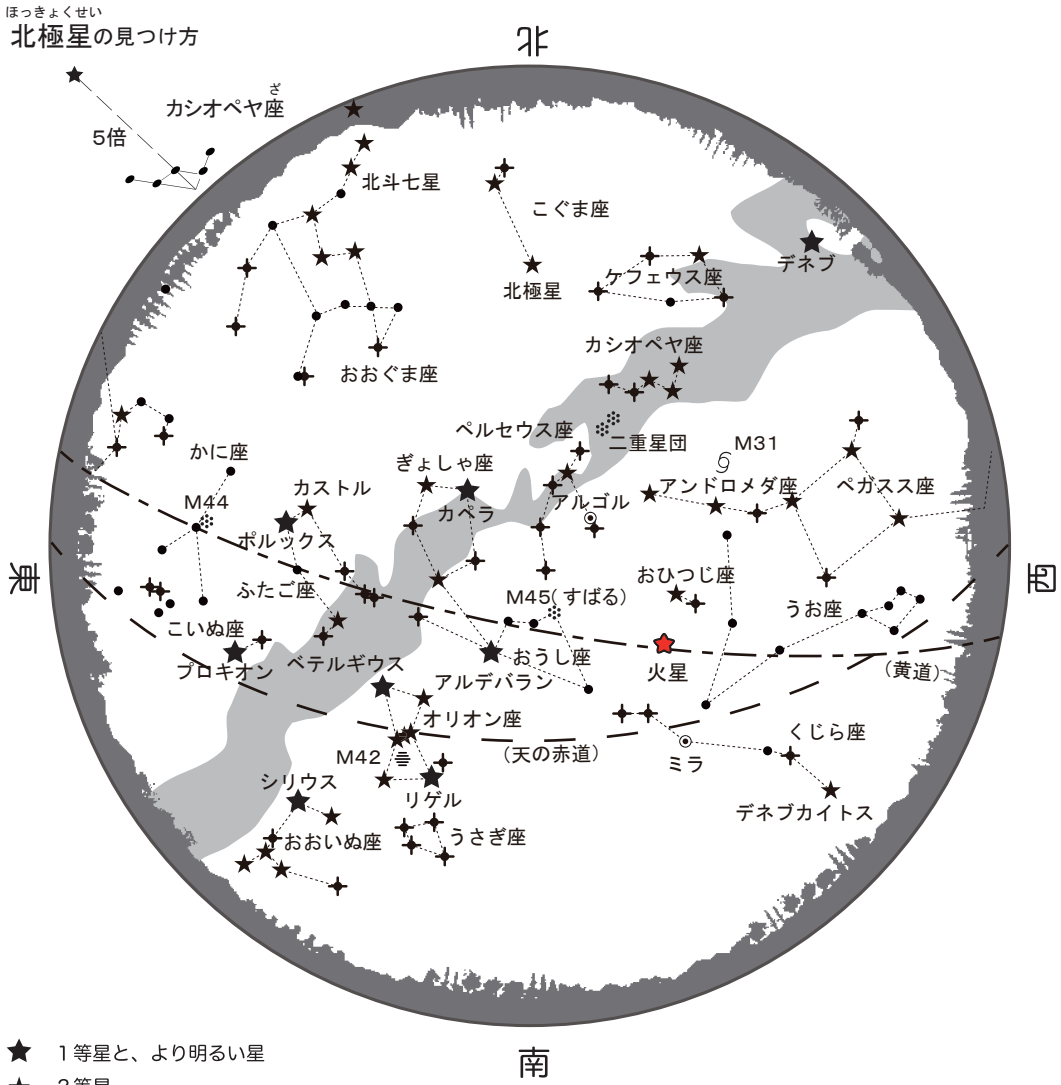
富山でみえる 2021年1月の星空

自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見よう。



★ 1等星と、より明るい星
★ 2等星
✦ 3等星
● 4等星と、より暗い星
⊙ 変光星
星団
星雲
銀河

この星空が見えるのは

1月	5日	午後9時ころ
1月20日		午後8時ころ
2月	5日	午後7時ころ

～月のようす～

1月 6日	下弦 ◑
1月13日	新月 ●
1月21日	上弦 ◐
1月29日	満月 ○

カシオペヤ座

北極星を見つけるための星座としてよく知られています。Wの形と言われていますが、今の時期はひっくり返ってMの形に見えます。日本では、船のいかりや山の形に似ているので「いかり星」とか「山がた星」と呼ばれました。

ぎょしゃ座

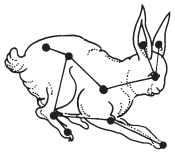
ぎょしゃとは馬車の運転手のことです。黄色の0等星カペラが目印で、このカペラをふくむ、少しつぶれた五角形の形に星をつなぎます。カペラには「小さなメス山羊」という意味があり、星座絵でも山羊をかかえた男の人が描かれています。

おうし座

赤い1等星アルデバランが目印です。星座絵では、おうしの目にあたります。またこの星座には、有名な「すばる」があります。平安時代に清少納言が『枕草子』の中で「星はすばる…」と、その美しさをたたえています。

オリオン座

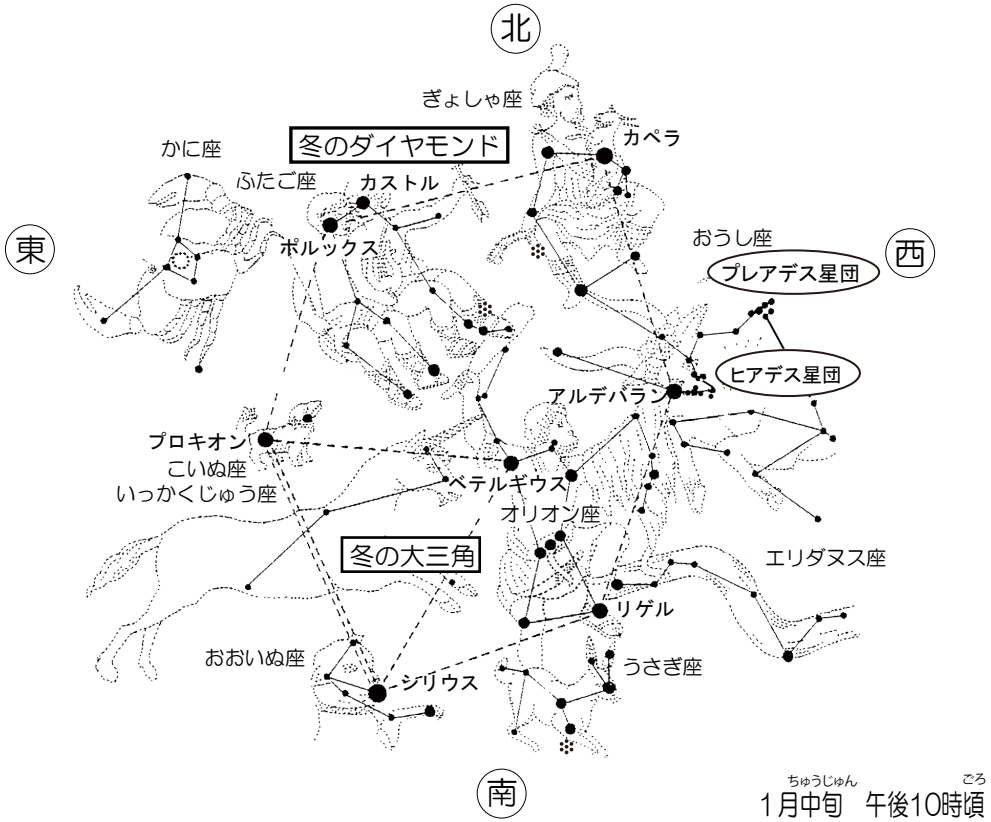
砂時計のような形をした星の並びがオリオン座です。左上の赤くて明るい星はベテルギウス、右下のやや青みがかった明るい星はリゲルで、ともに1等星よりも明るい星です。またこの星座には、オリオン大星雲（M42）と呼ばれる星雲があります。



うさぎ座

オリオンの足元にある星座です。うまく星をつなぐと、長い耳やしっぽ、前足などをたどることができます。顔のあたりには、暗いですが赤い色をした「クリムゾン・スター」と呼ばれる星があります。

冬の星座の見つけかた



1月中旬　午後10時頃

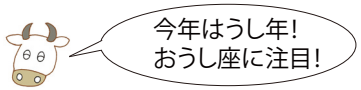
1　砂時計のような形のオリオン座を見つけます。
2　オリオン座の真ん中の３つ並んだ星（三つ星）を上にのばして、おうし座のアルデバランを見つけます。
3　アルデバランの左上に、カペラを含み五角形をしているぎょしゃ座を見つけます。
4　オリオン座の三つ星を左下にのばして、冬の星座で一番明るくかがやくシリウスを見つけます。
5　オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンで作る「冬の大三角」を見つけます。
6　ぎょしゃ座の左下に、２つ並んだ明るい星のあるふたご座を見つけます。
7　１等星以上の明るさのシリウス、プロキオン、ポルックス、カペラ、アルデバラン、リゲルをつなぐ大きな六角形が「冬のダイヤモンド」です。

○2021年の天文現象

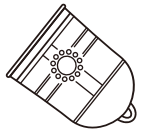
２０２１年は、２回の月食*が見られる月食の当たり年です。５月２６日には３年ぶりに皆既月食となります。１１月１９日には、部分月食ながら月の９８％が欠けるため、ほぼ皆既月食と同じように楽しめるでしょう。

＊月食：地球が太陽と月の間に入り、地球の影が月にかかることで月が欠けて見える現象。

○おうし座のヒアデス星団



おうし座には、肉眼で楽しめる星団が２つあります。すばるの名で親しまれるプレアデス星団と、おうしの顔を形づくるヒアデス星団です。ヒアデス星団はＶ字形の星の並びが目につくので、世界各国でさまざまな姿がイメージされてきました。日本でも昔から、お寺にある釣鐘に見立て「釣鐘星」などと呼ばれていました。あなたは、どのように見えますか?



つりがね
（日本）

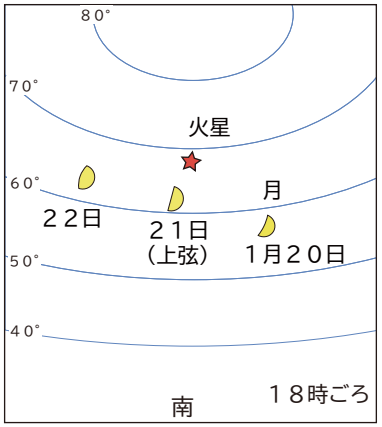
おうぎ
（日本）

たいまつ
（スペイン）

ラケット
（イタリア）

○上弦の月と火星

日の入りから１時間ほどたち空が暗くなったころ、南の空高くに赤くかがやく火星が見えています。昨年１０月の地球最接近時には明るさが−2.6等だった火星も、１月には約０等と、いくらか穏やかになってきましたが、夜空ではまだまだ明るく見えます。1月２１日には、火星のすぐ下側に上弦の月があり、わたしたちを楽しませてくれることでしょう。



富山市科学博物館　電話 076-491-2123（天文台は臨時休館中）ウエブサイト https://www.tsm.toyama.toyama.jp/